

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6685992号
(P6685992)

(45) 発行日 令和2年4月22日 (2020.4.22)

(24) 登録日 令和2年4月3日 (2020.4.3)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 F 13/511 (2006.01)

A 6 1 F 13/511 4 0 0

A 6 1 F 13/472 (2006.01)

A 6 1 F 13/472

A 6 1 F 13/533 (2006.01)

A 6 1 F 13/511 1 0 0

A 6 1 F 13/511 3 0 0

A 6 1 F 13/533

請求項の数 11 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2017-254061 (P2017-254061)
 (22) 出願日 平成29年12月28日 (2017.12.28)
 (65) 公開番号 特開2019-118489 (P2019-118489A)
 (43) 公開日 令和1年7月22日 (2019.7.22)
 審査請求日 令和1年7月31日 (2019.7.31)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 000115108
 ユニ・チャーム株式会社
 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地
 (74) 代理人 110001564
 フェリシテ特許業務法人
 (72) 発明者 黒田 賢一郎
 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7
 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
 ター内

審査官 西本 浩司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前後方向と、

前記前後方向に直交する幅方向と、

表面シートと、

前記表面シートの非肌対向面側に配置された吸収コアと、を有する吸収性物品であって、

前記表面シートは、非熱融着繊維を含む第 1 表面シートと、前記第 1 表面シートの非肌
 対向面側に位置する第 2 表面シートと、を有し、

少なくとも前記第 1 表面シートと前記第 2 表面シートを厚さ方向に圧縮した圧搾部が形
 成されている吸収性物品であって、

前記第 1 表面シートの前記幅方向の外側縁には、前記第 2 表面シートと接合されてい
 ない自由端部が設けられており、

前記自由端部よりも前記幅方向の内側において、前記第 1 表面シートの非肌対向面と前
 記第 2 表面シートの肌対向面とを接着剤により接合する接着領域が設けられている、吸収
 性物品。

【請求項 2】

前記圧搾部は、前記第 1 表面シート、前記第 2 表面シート及び前記吸収コアが圧縮され
 ている、請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

10

20

前記自由端部は、前記厚さ方向において前記吸収コアに重なっている、請求項2に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記自由端部は、前記第 1 表面シートの前記幅方向の前記外側縁を含み、前記前後方向に延びている、請求項 1 から請求項3のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記圧搾部は、前記第 1 表面シート側から前記第 2 表面シート側に向かって凹んでいる、請求項 1 から請求項4のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記第 2 表面シートの伸度は、前記第 1 表面シートの伸度よりも高い、請求項 1 から請求項5のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

10

【請求項 7】

前記接着領域は、間隔を空けて複数設けられている、請求項 1 から請求項6のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 8】

前記圧搾部は、前記自由端部に配置された第 1 圧搾部を有する、請求項 1 から請求項7のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 9】

前記第 1 圧搾部は、前記自由端部と、前記第 1 表面シートよりも外側の領域と、に跨がっている、請求項8に記載の吸収性物品。

20

【請求項 10】

前記圧搾部は、平面視にて間隔を空けて一対で配置されており、

前記一対の圧搾部同士の間隔は、一定でない、請求項 1 から請求項9のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 11】

前記自由端部は、前記第 1 表面シートの前記幅方向の前記外側縁を含み、

前記第 2 表面シートは、前記第 1 表面シートよりも前記幅方向の外側へ延びている請求項 1 から10のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

本発明は、生理用ナプキン等の吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、生理用ナプキン等の吸収性物品が開示されている。特許文献 1 の吸収性物品は、吸収コアの肌対向面側に複数の表面シートが設けられている。表面シートは、第 1 表面シート（特許文献 1 の表面シート）と、第 1 表面シートと厚さ方向に重なる第 2 表面シート（特許文献 1 の熱融着性繊維シート）と、を有する。第 1 表面シートは、非熱融着繊維を含むコットン不織布によって構成されている。また、第 1 表面シートと第 2 表面シートには、厚さ方向に圧縮された圧搾部が形成されている。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特許第 5 0 7 4 9 1 3 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

一般的にコットン不織布は、非熱融着繊維の交絡によって形成されている。熱等の融着又は接着剤などによる接着によって繊維同士を結合させた不織布と比較して、引っ張り方向の力が作用した際に裂け易い。よって、コットン不織布からなる第 1 表面シートと第 2

50

表面シートを厚さ方向に圧縮すると、第1表面シートが裂けるおそれがあった。

【0005】

したがって、非熱融着繊維を含む表面シートに圧搾部を形成した吸収性物品において、表面シートの破れを抑制できる吸収性物品が望まれる。

【課題を解決するための手段】

【0006】

一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、表面シートと、前記表面シートの非肌対向面側に配置された吸収コアと、を有する吸収性物品であって、表面シートは、非熱融着繊維を含む第1表面シートと、前記第1表面シートの非肌対向面側に位置する第2表面シートと、を有し、少なくとも前記第1表面シートと前記第2表面シートを厚さ方向に圧縮した圧搾部が形成されている吸収性物品であって、前記第1表面シートの外縁には、前記第2表面シートと接合されていない自由端部が設けられている。

10

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】図1は、肌対向面側から見た実施形態に係る吸収性物品の平面図である。

【図2】図2は、図1に示すA-A線に沿った断面図である。

【図3】図3は、図2に示すB部分の拡大図である。

【図4】図4は、接着領域とシート圧着部を示した平面図である。

【発明を実施するための形態】

20

【0008】

(1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、表面シートと、前記表面シートの非肌対向面側に配置された吸収コアと、を有する吸収性物品であって、表面シートは、非熱融着繊維を含む第1表面シートと、前記第1表面シートの非肌対向面側に位置する第2表面シートと、を有し、少なくとも前記第1表面シートと前記第2表面シートを厚さ方向に圧縮した圧搾部が形成されている吸収性物品であって、前記第1表面シートの外縁には、前記第2表面シートと接合されていない自由端部が設けられている。

30

【0009】

第1表面シートの自由端部は、平面方向に対して移動し易く、圧搾部の形成時に厚さ方向に圧縮された際に圧搾部側に移動できる。よって、圧搾部の形成時に第1表面シートに係る引っ張り方向の力を低減し、第1表面シートが裂けることを抑制できる。

【0010】

好ましい一態様によれば、前記圧搾部は、前記第1表面シート、前記第2表面シート及び前記吸収コアが圧縮されている。

【0011】

第1表面シート、第2表面シート及び吸収コアが圧縮されている構成にあっては、第1表面シート及び第2表面シートのみが圧縮された構成と比較して圧縮の程度が強く、より第1表面シートがより裂け易い。そのため、自由端部によって第1表面シートの破れを抑制することが好ましい。

40

【0012】

好ましい一態様によれば、前記自由端部は、厚さ方向において前記吸収コアに重なっている。

【0013】

吸収コアに圧搾部が形成され、吸収コアに自由端部が重なっているため、圧搾部と自由端部が近くに配置され易い。引っ張り方向の力を緩和するための自由端部が圧搾部の近くに配置されることにより、第1表面シートが裂けることをより抑制できる。

【0014】

50

好ましい一態様によれば、前記自由端部は、前記第 1 表面シートの前記幅方向の外側縁を含み、前記前後方向に延びている。

【 0 0 1 5 】

第 1 表面シートの外側縁に自由端部を設けることにより、自由端部の面積を確保し易く、第 1 表面シートの破れをより抑制できる。

【 0 0 1 6 】

好ましい一態様によれば、前記圧搾部は、第 1 表面シート側から前記第 2 表面シート側に向かって凹んでいる。

【 0 0 1 7 】

圧搾部によって圧縮する力は、第 1 表面シートから第 2 表面シート側にかかる。力が加わる側（肌対向面側）に自由端部が設けられているため、引っ張り方向の力をより緩和でき、第 1 表面シートの破れをより抑制できる。

【 0 0 1 8 】

好ましい一態様によれば、前記第 2 表面シートの伸度は、前記第 1 表面シートの伸度よりも高い。

【 0 0 1 9 】

第 2 表面シートは第 1 表面シートの伸度よりも高いため、第 1 表面シートに低い伸度のシートを使用し、接合した場合にも、表面シート全体の伸度の低下を抑制、第 1 表面シートの破れを軽減できる。

【 0 0 2 0 】

好ましい一態様によれば、前記第 1 表面シートと前記第 2 表面シートを接着する接着剤を有する接着領域が、自由端部よりも内側に設けられており、前記接着領域は、間隔を空けて複数設けられている。

【 0 0 2 1 】

接着領域では、第 1 表面シートと第 2 表面シートが接合され、接着領域間の領域では、第 1 表面シートと第 2 表面シートが接合されていない。そのため、引っ張られる力がかかった際に移動し易い部分（接着領域間の領域）と、移動し難い部分（接着領域）と、が存在する。引っ張られる力がかかった際には、移動し難い部分を基点に移動し易い部分が移動する。当該領域が複数設けられることにより、第 1 表面シート 11 の広い範囲で引っ張り方向の力をより緩和でき、第 1 表面シートの破れをより抑制できる。

【 0 0 2 2 】

好ましい一態様によれば、前記圧搾部は、前記自由端部に配置された第 1 圧搾部を有する。

【 0 0 2 3 】

第 1 圧搾部を自由端部に形成する場合は、第 1 表面シートと第 2 表面シートが接合されていない領域を圧縮し、第 1 圧搾部を形成する。少なくとも第 1 圧搾部の周囲において第 1 表面シートと第 2 表面シートが接合されていないため、第 1 表面シートに作用する引っ張り方向の力を緩和できる。よって、第 1 表面シートが裂けることをより抑制できる。

【 0 0 2 4 】

好ましい一態様によれば、前記第 1 圧搾部は、前記自由端部と、前記第 1 表面シートよりも外側の領域と、に跨がっている。

【 0 0 2 5 】

第 1 圧搾部全域が第 1 表面シートに形成されている構成と比較して、第 1 圧搾部の形成時に第 1 表面シートに作用する引っ張り方向の力が緩和される。よって、第 1 表面シートが裂けることをより抑制できる。

【 0 0 2 6 】

好ましい一態様によれば、前記圧搾部は、平面視にて間隔を空けて一対で配置されており、前記一対の圧搾部同士の間隔は、一定でない。

【 0 0 2 7 】

圧搾部同士の間隔が広い部分では、当該部分における第 1 表面シートの長さが長い

10

20

30

40

50

、圧搾部の形成時の引っ張り方向の力が弱く作用する。一方、圧搾部同士の間隔が狭い部分では、当該部分における第1表面シートの長さが短いため、圧搾部の形成時の引っ張り方向の力が強く作用する。引っ張り力が強く作用する部分と弱く作用する部分が混在するため、力が均一にかかる場合と比較して力が集中せず、第1表面シートが裂けることをより抑制できる。

【0028】

(2) 吸収性物品の構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品について説明する。吸収性物品は、生理用ナプキン、パンティライナー、母乳パッド、大人用失禁パッド、糞便パッド又は汗取りシートのような吸収性物品であってよい。特に、吸収性物品は、使用者の下着のような着用物品の内側に取り付けられて使用される物品であってよい。

10

【0029】

なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なる場合があることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参照して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれる場合がある。

【0030】

図1は、肌対向面側から見た第1実施形態に係る吸収性物品1の平面図である。ここで、「肌対向面側」は、使用中に着用者の肌に面する側に相当する。「非肌対向面側」は、使用中に着用者の肌とは反対に向けられる側に相当する。図2は、図1に示すA-A線に沿った断面図であり、図3は、図2に示すB部分の拡大図である。

20

【0031】

吸収性物品1は、前後方向L及び幅方向Wを有する。前後方向Lは、着用者の前側（腹側）から後側（背側）に延びる方向、又は着用者の後側から前側に延びる方向である。幅方向Wは、前後方向Lと直交する方向である。

【0032】

吸収性物品1は、前側域R1と、後側域R2と、中央域R3と、を含む。中央域R3は、着用者の排泄口（例えば膣口）に対向する排泄口当接部R33を含む。吸収性物品1が下着に装着されたときに、中央域R3は、下着の股下部に位置する。つまり、排泄口当接部R33は、着用者の股下、すなわち着用者の両足の間に配置される領域である。

30

【0033】

前側域R1は、中央域R3よりも前側に位置する。前側域R1の前端縁は、吸収性物品1の前端縁を規定する。後側域R2は、中央域R3よりも後側に位置する。後側域R2の後端縁は、吸収性物品1の後端縁を規定する。後側域R2の前後方向Lの長さは、中央域R3の前後方向Lの長さよりも長くなってよい。

【0034】

中央域R3には、後述するウイング3が設けられていてよい。また、後側域R2には、幅方向Wの外側に膨らんだヒップフラップ4が設けられていてよい。ウイング3の前端縁は、ウイング3の付け根によって規定されており、最も幅方向Wの内側に窪んだ2つの部分のうち、前側に位置する部分に相当する。ウイング3の前端縁は、中央域R3と前側域R1との境界を規定していてもよい。ウイング3の後端縁は、ウイング3の付け根によって規定されており、最も幅方向Wの内側に窪んだ2つの部分のうち、後側に位置する部分に相当する。ウイング3の後端縁は、中央域R3と後側域R2との境界を規定していてもよい。

40

【0035】

吸収性物品1は、着用者の肌に向けられる表面シート10と、着用者の肌とは反対側に向けられる裏面シート14と、表面シート10と裏面シート14の間に配置された吸収コア20と、を含む。表面シート10は、吸収コア20よりも肌対向面側T1に設けられる。裏面シート14は、吸収コア20よりも非肌対向面側T2に設けられる。吸収コア20

50

は、表面シート１０と裏面シート１４との間に設けられる。

【００３６】

表面シート１０は、体液等の液体を透過する液透過性のシートである。表面シート１０は、幅方向Ｗにおける吸収コア２０の中央部を覆ってよい。表面シート１０は、前側域Ｒ１から後側域Ｒ２まで前後方向Ｌに延びていてよい。表面シート１０は、第１表面シート１１と第１表面シート１１の非肌対向面側に位置する第２表面シート１２を有してよい。

【００３７】

第１表面シート１１は、非熱融着繊維を含む。非熱融着繊維は、コットン繊維を例示できる。第１表面シート１１は、非熱融着繊維の交絡によって形成されている。コットン繊維の繊維径は、 $0.9-1.2\text{Dtex}$ であってよく、コットン繊維の繊維長は、 $25.4-29.4\text{mm}$ であってよい。第１表面シート１１は、コットン不織布を例示できる。コットン不織布は、の目付は、 $30\text{g}/\text{m}^2$ であってよい。また、第１表面シート１１は、２層構造であってもよい。より詳細には、コットン繊維１００％の上層と、コットン繊維６０％と熱融着性繊維４０％の下層と、の積層シートによって構成されてよい。第１表面シート１１の破断伸度は、繊維の配向方向に沿った強度が $30\sim60\text{N}/25\text{mm}$ であってよく、繊維の配向方向と直交方向の強度が $5\sim10\text{N}/25\text{mm}$ であってよい。また、第１表面シート１１は、図２のように、肌対向面側に凸状のたくれを形成するように形成してもよい。たくれ部を形成することにより、伸度が低い第１表面シートの幅方向に対する伸度を凸形状分増加することが出来るために第１表面シートの破れを軽減できる。

【００３８】

第２表面シート１２は、熱融着繊維を含む。第２表面シート１２は、熱融着繊維の融着によって形成されている。表面シート１０は、サイドシート１３を更に有してもよい。サイドシート１３は、第１表面シート１１及び第２表面シート１２の幅方向の外側に延びてよい。サイドシート１３は、第１表面シート１１及び第２表面シート１２の非肌対向面側に配置されており、第１表面シート１１及び第２表面シート１２を覆っていない。

【００３９】

図３に示すように、第１表面シート１１と第２表面シート１２は、厚さ方向Ｔに積層されている。第１表面シート１１と第２表面シート１２は、接合領域ＲＸにおいて接合されてよい。第１表面シート１１と第２表面シート１２が重なる領域には、第１表面シート１１と第２表面シート１２が接合された接合領域ＲＸと、第１表面シート１１と第２表面シート１２が接合されていない非接合領域ＲＹと、が設けられる。非接合領域ＲＹの少なくとも一部は、後述する自由端部１５を構成する。

【００４０】

第１表面シート１１と第２表面シート１２には、圧搾部６０が形成されてよい。圧搾部６０は、少なくとも第１表面シート１１と第２表面シート１２を厚さ方向に圧縮している。圧搾部６０は、第１表面シート１１、第２表面シート１２、及び吸収コア２０を厚さ方向に圧縮してもよい。本実施の形態の圧搾部６０は、第１表面シート１１、第２表面シート１２、及び吸収コア２０を厚さ方向に圧縮している。また、吸収性物品１は、圧搾部６０とは別に、第１表面シート１１と第２表面シート１２を圧着したシート圧着部１８を更に備えてもよい。

【００４１】

裏面シート１４は、液不透過性のシートである。裏面シート１４は、ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、スパンボンド、又はスパンレース等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシートなどを用いることができる。

【００４２】

吸収コア２０は、少なくとも中央域Ｒ３及び後側域Ｒ２に配置される。また、吸収コア２０は、中央域Ｒ３から前側域Ｒ１まで延びていてもよい。吸収コア２０は、液体を吸収する吸収材料を含む。吸収コア２０は、コアラップによって包まれていてもよい。吸収コア２０を構成する吸収材料は、例えば、親水性繊維、パルプ及び高吸水性高分子（ＳＡＰ

10

20

30

40

50

）から形成できる。コアラップは、例えば不織布やティッシュシートから構成することができる。

【 0 0 4 3 】

前述したように、吸収性物品 1 は、ウイング 3 及びヒップフラップ 4 を有する。ウイング 3 及びヒップフラップ 4 は、中央域 R 3 における吸収コア 2 0 の外側縁よりも幅方向 W の外側に延出している。ウイング 3 及びヒップフラップ 4 は、表面シート 1 0 と裏面シート 1 4 との積層によって構成されていてよい。ウイング 3 は、裏面シート 1 4 側に折り返し可能に構成されている。ウイング 3 は、使用時に下着のクロッチ部の非肌対向面側に折り返される。

【 0 0 4 4 】

ヒップフラップ 4 は、ウイング 3 よりも後側に位置し、後側域 R 2 に設けられている。ヒップフラップ 4 は、使用時に折り返されず、下着と着用者の臀部との間に配置される。本実施形態では、ヒップフラップ 4 には吸収材料が設けられていない。この代わりに、ヒップフラップ 4 には、吸収材料が設けられていてもよい。

【 0 0 4 5 】

次いで、このように構成された吸収性物品 1 の表面シートの破れを抑制する構成について説明する。吸収性物品 1 は、非熱融着繊維を有する表面シート（本実施の形態における第 1 表面シート 1 1）の破れを抑制するように構成されている。第 1 表面シート 1 1 の外縁には、第 2 表面シートと接合されていない自由端部 1 5 が設けられてよい。自由端部 1 5 は、第 1 表面シート 1 1 の非肌対向面と第 2 表面シート 1 2 の肌対向面とが接合されていない領域であり、接着領域 R A が設けられてなく、かつシート圧着部 1 8 が設けられていない領域であってよい。なお、シート圧着部 1 8 を有しない構成にあっては、自由端部 1 5 は、接着領域 R A が設けられてない領域であってよい。また、外縁は、部材の周辺端であり、前後方向の前端縁及び後端縁と、幅方向の外側縁と、を含む。

【 0 0 4 6 】

第 1 表面シート 1 1 及び第 2 表面シート 1 2 は、圧搾部 6 0 の形成時に厚さ方向に圧縮され、平面方向に引っ張られる力が作用する。このとき、第 1 表面シート 1 1 の全体が第 2 表面シート 1 2 に接合されている構成にあっては、第 1 表面シート 1 1 は、平面方向の移動における自由度がなく、平面方向に引っ張られる力によって裂けてしまうおそれがある。第 1 表面シート 1 1 の自由端部は、平面方向に対して移動し易く、圧搾部 6 0 の形成時に厚さ方向に圧縮された際に圧搾部 6 0 側に移動できる。よって、圧搾部 6 0 の形成時に第 1 表面シート 1 1 に係る引っ張り方向の力を低減し、コットン繊維等の非熱融着繊維を有する第 1 表面シート 1 1 の破れを抑制できる。

【 0 0 4 7 】

特に、本実施の形態のように、第 1 表面シート 1 1、第 2 表面シート 1 2 及び吸収コア 2 0 が圧縮された圧搾部 6 0 を有する構成にあっては、第 1 表面シート 1 1 及び第 2 表面シート 1 2 のみが圧縮された構成と比較して圧縮の程度が強く、より第 1 表面シート 1 1 がより裂け易い。そのため、自由端部 1 5 によって第 1 表面シート 1 1 の破れを抑制することが好ましい。

【 0 0 4 8 】

次いで、自由端部 1 5 について詳細に説明する。図 4 は、第 1 表面シート 1 1 と第 2 表面シート 1 2 の接着領域 R A と、シート圧着部 1 8 と、を示している。実際には、接着領域 R A とシート圧着部 1 8 は、厚さ方向に重なっているが、説明の便宜上、前後方向に隣接した状態で図示している。接着領域 R A は、第 1 表面シート 1 1 と第 2 表面シート 1 2 の接着剤が塗布された領域である。接着領域 R A は、前後方向 L に延びており、幅方向に間隔を空けて複数設けられてよい。接着領域 R A の幅方向の長さは、接着領域 R A の幅方向の間隔よりも長くてよい。他の形態において、接着領域 R A は、幅方向 W に延びており、前後方向 L に間隔を空けて複数設けられてもよい。

【 0 0 4 9 】

シート圧着部 1 8 は、前後方向 L に延びており、幅方向 W に間隔を空けて複数設けられ

10

20

30

40

50

てよい。シート圧着部 18 の幅方向の長さはシート圧着部 18 の幅方向の間隔よりも短くてよい。他の形態において、接着領域 R A は、幅方向 W に延びており、前後方向 L に間隔を空けて複数設けられてもよい。

【0050】

シート圧着部 18 と接着領域 R A が厚さ方向に重なる領域と、厚さ方向に重ならない領域が設けられてよい。シート圧着部 18 と接着領域 R A が厚さ方向に重ならない領域は、非接合領域 R Y を構成する。シート圧着部 18 と接着領域 R A が厚さ方向に重なる領域、シート圧着部 18 のみが設けられた領域、及び接着領域 R A のみが設けられた領域は、接合領域 R X を構成する。

【0051】

接着領域 R A は、第 1 表面シート 11 の外縁よりも内側に位置してよい。すなわち、接着領域 R A は、第 1 表面シート 11 の幅方向の外側縁 11 E よりも幅方向の内側に位置してよいし、第 1 表面シート 11 の前後方向 L の外端縁 11 F よりも前後方向の内側に位置してよい。また、最も幅方向の外側に位置する接着領域 R A は、最も幅方向の外側に位置するシート圧着部 18 よりも幅方向の外側に位置してよい。このような構成にあっては、自由端部 15 は、第 1 表面シート 11 の外側縁 11 E と、最も幅方向の外側に位置する接着領域 R A と、の間の領域となる。また、最も前後方向の外側に位置する接着領域 R A は、最も前後方向の外側に位置するシート圧着部 18 よりも幅方向の外側に位置してよい。このような構成にあっては、自由端部 15 は、第 1 表面シート 11 の外端縁 11 F と、最も前後方向の外側に位置する接着領域 R A と、の間の領域となる。

【0052】

自由端部 15 は、第 1 表面シート 11 の幅方向の外側縁 11 E を含み、前後方向 L に延びてよい。一般的に吸収性物品 1 は、前後方向 L の長さが幅方向 W の長さよりも長い。そのため、第 1 表面シート 11 の外側縁 11 E に自由端部 15 を設けることにより、自由端部 15 の面積を確保し易く、第 1 表面シート 11 の破れをより抑制できる。

【0053】

自由端部 15 は、厚さ方向 T において吸収コア 20 に重なってよい。吸収コア 20 に圧搾部 60 が形成され、吸収コア 20 に自由端部 15 が重なっているため、圧搾部 60 と自由端部 15 が近くに配置され易い。引っ張り方向の力を緩和するための自由端部 15 が圧搾部 60 の近くに配置されることにより、第 1 表面シート 11 が裂けることをより抑制できる。

【0054】

接着領域 R A は、間隔を空けて複数設けられてよい。接着領域 R A では、第 1 表面シート 11 と第 2 表面シート 12 が接合され、接着領域 R A 間の領域では、第 1 表面シート 11 と第 2 表面シート 12 が接合されていない。そのため、引っ張られる力がかかった際に移動し易い部分（接着領域間の領域）と、移動し難い部分（接着領域）と、が存在する。引っ張られる力がかかった際には、移動し難い部分を基点に移動し易い部分が移動する。当該領域が複数設けられることにより、第 1 表面シートの広い範囲で引っ張り方向の力をより緩和でき、第 1 表面シート 11 の破れをより抑制できる。

【0055】

圧搾部 60 は、第 1 表面シート 11 の外縁よりも内側に位置してよい。すなわち、圧搾部 60 は、第 1 表面シート 11 の幅方向の外側縁よりも幅方向の内側に位置してよいし、第 1 表面シート 11 の前後方向 L の外端縁よりも前後方向の内側に位置してよい。圧搾部 60 は、第 1 圧搾部 61 と第 2 圧搾部 62 を有してよい。

【0056】

第 1 圧搾部 61 は、自由端部 15 に配置されてよい。第 1 圧搾部 61 を自由端部に形成する場合は、第 1 表面シート 11 と第 2 表面シート 12 が接合されていない領域を圧縮し、第 1 圧搾部 61 を形成する。少なくとも第 1 圧搾部 61 の周囲において第 1 表面シート 11 と第 2 表面シート 12 が接合されていないため、第 1 表面シート 11 に作用する引っ張り方向の力を緩和できる。よって、第 1 表面シートが裂けることをより抑制できる。ま

10

20

30

40

50

た、第2圧搾部62は、第1表面シートと第2表面シートが接合された接合領域RXに設けられてよい。

【0057】

第1圧搾部61は、自由端部15と、第1表面シート11よりも外側の領域と、に跨ってよい。第1表面シート11よりも外側には、少なくともサイドシート13が配置されてよい。第1圧搾部61全域が第1表面シートに形成されている構成と比較して、第1圧搾部61の形成時に第1表面シートに作用する引っ張り方向の力が緩和される。よって、第1表面シートが裂けることをより抑制できる。

【0058】

圧搾部60は、第1表面シート11側から第2表面シート12側に向かって凹んでよい。圧搾部60によって圧縮する力は、第1表面シート11側から第2表面シート12側にかかる。力が加わる側（肌対向面側）に位置するシートに自由端部15が設けられているため、引っ張り方向の力をより緩和でき、第1表面シート11の破れをより抑制できる。

【0059】

圧搾部60は、平面視にて間隔を空けて一対で配置されてよい。一対の圧搾部60同士の間隔は、一定でなくてよい。すなわち、図1に示すように、一対の圧搾部60同士の間隔が狭い第1領域R11と、一対の圧搾部60同士の間隔が第1領域R11よりも広い第2領域R12と、を有してよい。圧搾部60同士の間隔が広い部分では、当該部分における第1表面シートの長さが長いため、圧搾部60の形成時の引っ張り方向の力が弱く作用する。一方、圧搾部60同士の間隔が狭い部分では、当該部分における第1表面シート11の長さが短いため、圧搾部60の形成時の引っ張り方向の力が強く作用する。引っ張り力が強く作用する部分と弱く作用する部分が混在するため、力が均一にかかる場合と比較して力が集中せず、第1表面シートが裂けることをより抑制できる。

【0060】

第2表面シート12の伸度は、第1表面シート11の伸度よりも高くてもよい。第2表面シート12が第1表面シート11の伸度よりも高いため、第1表面シート11に比較的伸度が低いシートを使用し、当該第1表面シートを接合した場合にも、表面シート全体の伸度の低下を抑制、第1表面シートの破れを軽減できる。

【0061】

なお、伸度は引張試験機（島津製作所製 オートグラフ）を使用して測定できる。具体的には、第1表面シートと第2表面シートとを25mm×40mmの大きさに切り出した試験片を切り取り、各資材が伸張しないように接合部を低温状態に保つことで分離する。引張り試験機の測定端子間を20mmに設定した後、引張速度100mm/minの設定条件で測定し、破断時の伸度の値を求める。測定は3回行い、その平均値を各シートの伸度とする。

【0062】

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

【産業上の利用可能性】

【0063】

体液の漏れを抑制しつつ、吸収コアの全体に体液を導き易い吸収性物品を提供できる。

【符号の説明】

【0064】

1 吸収性物品

11 第1表面シート（表面シート）

12 第2表面シート（表面シート）

10

20

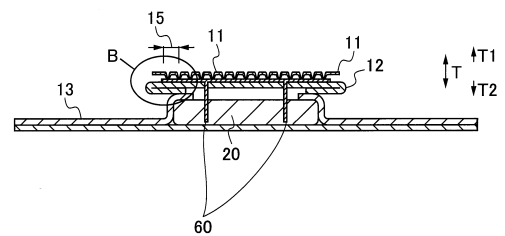
30

40

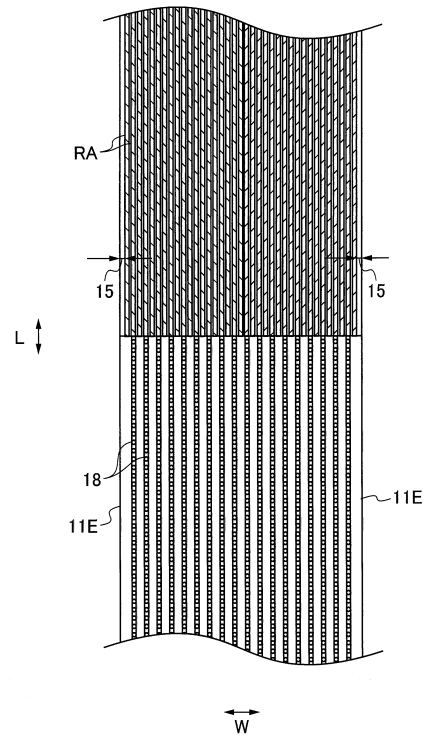
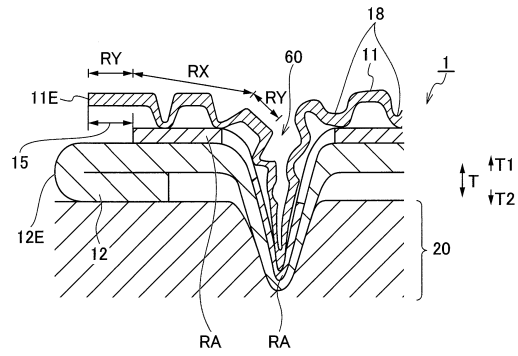
50

- | | |
|-----|---------------|
| 1 3 | サイドシート（表面シート） |
| 1 5 | 自由端部 |
| 2 0 | 吸収コア |
| 6 0 | 圧搾部 |
| 6 1 | 第 1 圧搾部 |

【圖 2】



【 図 4 】



フロントページの続き

(56)参考文献 国際公開第2017/179329(WO, A1)
特開2008-246043(JP, A)
特許第5074913(JP, B2)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61F 13/15 - 13/84
A61L 15/16 - 15/64